2015.12
編集・発行*****
ネットワーク事務局:TO

ヨシでびわ湖を守るネットワーク

ヨシでびわ湖を守る ネットワーク通信

VOL. 23

西の湖で出会ったカワセミの姿

撮影:ユニキャリア(株)　大池 耕治さま

カワセミ(翡翠、川瀬見)とも書くそうですが、水面より少し高いところから獲物の魚影を覗き込む姿は愛らしく、また後姿のメタリックなコバルト・ブルーも野鳥愛好家(私も含め)の気持ちをワシづかみにしています。胸のオレンジ色は“ヨシ原”の中では枯れた色に同化しているので見つけにくいです。撮影した鳥は口ばしが少し短いようなので幼鳥かも知れません。(人に対する警戒心も成鳥ほど強くないようですから撮影対象としてはラッキーだったのかも・・・)
餌になる小魚を水中に飛び込んで捕るため、浅瀬の水辺が撮影ポイントになります。

撮影場所:近江八幡市安土町常楽寺(西の湖岸)

寄稿:大池 耕治さま

自慢の自然環境(生物・植物・その他)写真をお持ちの方、投稿して下さい。皆さんのネットワーク通信への参加をお待ちしてま～す。

びわ湖を知る■問題

カワセミのくちばしをモチーフにした新幹線は何系でしょうか？

① 0系　② 300系
③ 500系　④ 700系

特集
1ページ

滋賀県立琵琶湖博物館
総括学芸員
山川 千代美 様より

古琵琶湖を彩る湿地林

日本最大の規模を誇る琵琶湖は、430万年の歴史をもつ古代湖の一つです。現在のように、滋賀県の中央に位置する場所に誕生したのが今から100万年前で、広くて深い琵琶湖が形成されたのが40万年前と言われています。現在の琵琶湖に続くそれ以前の太古の湖を「古琵琶湖」と呼んで、琵琶湖博物館では琵琶湖の生い立ちと生き物の変遷を探る研究を進めています。

【古琵琶湖層からわかる植生】

琵琶湖や内湖の湖岸風景と言えば、落葉広葉樹のヤナギやハンノキと湿生植物のヨシやマコモなどが生育している水辺をイメージされることが多いでしょう。これらの湖岸に生育する植物がいつから存在し、水辺の植生を形成してきたのでしょうか？また、古琵琶湖の時代から現在の琵琶湖に至るまで、水辺の植生は変わらなかったのでしょうか？その答えは、古琵琶湖層（古琵琶湖やその周辺の河川や湿地でたまった地層）に含まれている植物化石を研究することでわかります。

古琵琶湖層から産出する植物化石は、これまでに100種類ほど報告されており、その多くは現在見ることができます。そのうち、フジイマツやオオバタグルミなど、現在では存在しない絶滅種（化石種）や、イヌカラマツやフウなど日本から消滅してしまった種類も約十数種類含まれています。

古琵琶湖の時代に湖沼や湿地などに生育していたのが、現在と同様にハンノキやヤナギ、キイチゴ属といった樹木と、ヒシやコウホネ属などの水生植物やカヤツリグサ科スゲ属、ホタルイ属といった草本類です。そして、この見慣れた水辺風景の中に、ヒノキ科（旧スギ科）の落葉針葉樹メタセコイアとスイショウが構成種として存在したことがわかっています。

『化石林を構成する植物の化石』

上段左から：メタセコイアの球果 ・スイショウの球果
ハンノキの果実
下段左から：スゲ属の果実（4mm）
ホタルイ属の果実（2mm）

【多様な植物が繁茂していた湿地林】

メタセコイアは生きている化石として有名で、1941年に化石で確認された後、1945年に中国・湖北省と四川省の境付近で発見された樹木です。スイショウは、現在、中国とベトナムの河川や沼地に生育している樹木で、両種とも水辺や湿地を好む針葉樹です。

メタセコイアとスイショウともに古琵琶湖層からは葉や球果、種子のほか、樹幹や樹根が立ったままの状態で保存されて

『愛知川河床から露出した化石林』

『現生のメタセコイア』
（秋に紅葉した姿）

『現生のスイショウ』
（湿地に生える姿）

いる化石林として発見されています。化石林のの調査結果から、水辺に生育するスイショウとヤナギ、ハンノキとその陸側に樹幹長径が1mを超える大型のメタセコイアで構成される湿地林の風景が浮かび上がってきます。晩秋には、黄色のハンノキ、ヤナギ林に赤茶に紅葉したメタセコイアの樹木が映えていたことでしょう。しかしながら、古琵琶湖層ではスイショウが今から約150万年前、メタセコイアは約80万年前に古琵琶湖地域から消滅してしまったことから、80万年以降の湿地林は様変わりしたようです。古琵琶湖の時代から、低湿地には多様な植物が繁茂していたことが伺えます。

【ヨシの化石は？】

一般に地層に残る植物としては、埋積する環境が水浸きの河川や湿地、湖沼になるため、水辺に生育する種類が化石として残りやすいという傾向があります。それではヨシはどうでしょうか。実は、これまでに古琵琶湖層から産出したヨシの化石は、花粉化石でイネ科植物として認識されていますが、残念ながら葉や茎など大型植物化石としては確認されていません。湖岸で発掘された遺跡の地層には、スクモ層と呼ばれるヨシや水生植物が泥と一緒に埋積してできた腐食土が挟まれています。ここでは植物質のものがよく保存されるため、縄文時代のこのスクモ層からは幾つもの丸木舟が発見されており、縄文人の水辺での活動も伺えます。今後、ヨシが古琵琶湖の周囲に存在したという証拠が見つかることを期待しています。

『スクモ層から出土したつくりかけの丸木舟』
（松原内湖遺跡　縄文後期4000年前　撮影：用田政晴氏）

『姉川河口の湖岸にある湿地林』

【移り変わる湖岸風景】

私たちが日ごろ目にする湖岸の風景は、人工湖岸に公園植栽、防風林など、本当の自然とは呼べないものになっていますが、文化的自然景観として親しまれています。それでも、一般的に人を寄せつけない湖岸では、ヤナギやハンノキ、ヨシやマコモ、ミクリ、タデ、スゲ、ヒシなどの湿生・水生植物が繁茂し、自然更新する植生をもつ水辺空間が広がっています。400万年余の時とともに水辺を構成する植物も移り変わってきました。この風景が今後どのように変化するのか、興味深いところです。

ネットワーク広場

スミ利文具店
藤井 稔也様より

ヨシ文具のことならスミ利文具店へ

スミ利文具店は、近江八幡市に店舗を構え、企業、官庁、学校への納品を主体に、幅広い商品、サービスを提供しております。 地方の小さな文具店ではございますが、近年では文具好きの方々の間で、当店のホームページが話題となっており、休日には観光を兼ねて遠く関東地方からもご来店いただいております。特に、万年筆ファンの間では、ちょっと知られた存在となってきました。 そんな時、各種の観光資源に恵まれ、市街から少し足を延ばせば、独特の景観を作りだすヨシ群落や、雄大な琵琶湖を望むことができる、近江八幡の地で商売をさせていただき、本当に有難いと思っています。

「毎年、冬になるとヨシ刈りボランティアに駆り出されまして、いつぞやは吹雪の中で･･･」 県内外からご来店下さる文具好きのお客様を相手に、武勇伝！？を披露するのもちょっとした楽しみです。 私のヨシ刈りのスキルは毎年リセットされて、一向に熟練の域に達しませんが、以前と比べると、ヨシの1本1本が太く、立派になってきており、雑草も随分少なくなっているのが分かり、毎年の参加が楽しみです。 自分が刈り取ったヨシが、ノートやコピー用紙の一部になっているというのも、気分が良いものです。

リエデンのヨシ文具は、環境に敏感な企業様や、文具好きのお客様からご好評をいただいており、ビジネスやプライベートで県外を訪れる際の手土産、滋賀の布教用！？としてご利用いただくこともしばしばです。ヨシコピー用紙や、ヨシ名刺、各種別製品の製作なども実績が上がってきております。 微力ではございますが、「刈る、作る、使う」というヨシ活用の大きなサイクルを回し続ける為に、製品を販売する立場として、一層の努力をしたいと考えております。

今後もネットワーク会員の皆様と共に、
楽しみながら活動に参加できればと思っております。

『 “こんにちは” 店の看板娘とリエデン商品 』

スミ利文具店
近江八幡市仲屋町20
TEL 0748－32－2077
ホームページ http://www.sumi-ri.com
メール info@sumi-ri.com

ネットワーク アルバム：1

ヨシでびわ湖を守る ネットワーク

びわ湖環境ビジネスメッセ２０１５
１０月２１～２３日

500名を超えるメンバーの参加をいただいた昨シーズンのヨシ刈り

今年も多くの皆さまにお越しいただき大盛況となりました。
みなさま本当に有難うございました。ヾ(￣v￣)k

ヨシ原で巣立つ
オオヨシキリ！

人気爆発の『びわこ文具』

皆さまにご支援のおかげでいただいた賞！
『買うエコ大賞』『環境人づくり企業大賞』

びわ湖を知る■解答

③
ちなみに700系がカモノハシに似ているとも言われていますが偶然の一致だそうです。

ネットワーク アルバム：2

ヨシでびわ湖を守る ネットワーク

伊庭内湖ヨシ刈りボランティア

12月5日（土）

作業終了後の記念撮影　（参加２１社：１３４名）

開会式挨拶
：東近江市市長
：地元自治会
：ネットワーク

参加企業、地元が協力し合って
みるみるヨシが刈られていきます！

大人も子供も一緒にヨシ刈り作業！
いい汗流してま～す。

作業の成果が野立てに

地元からのトン汁にホッと一息（＾ｖ＾）

参加いただいた皆さまお疲れ様でした。次回も宜しく！

西の湖ヨシ刈り予定

2016年　2月　6日（土）
　　2月20日（土）　の2回

改めてご連絡致します。

お知らせ

みんなの
リエデン

おかげ様でリニューアル発売
びわこふせん

ご好評につき
装いを新たに再登場！

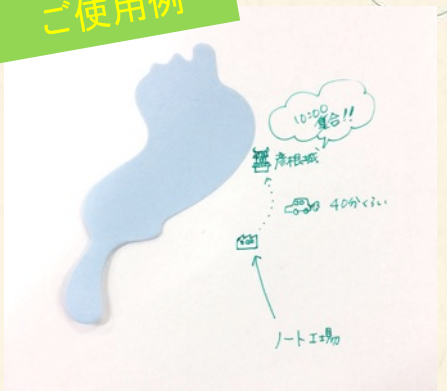
びわこふせん

琵琶湖と琵琶湖に棲む生き物の
一部を型どったふせんです
デザイン：3柄
「びわこ」
「カイツブリの足」
「ナマズのおっぽ」
枚数：各15枚
発売日：2015年10月20日

今年の3月に数量限定で発売した「びわこふせん」を、おかげ様でリニューアル発売することとなりました。今回、装いを新たに発売する「びわこふせん」は、前作をご使用いただいたお客様のお声にお応えし、ふせん本体に琵琶湖らしいブルーの紙を採用しました。「びわこ」「カイツブリの足」「ナマズのおっぽ」の3柄が入っています。また、台紙はコンパクトに折りたたむことができ、持ち運びに便利な機能を追加しました。
ぜひ、名刺入れに忍ばせて、びわこを持ち歩いてみてください。ここぞという時に、そっと名刺に貼ってお渡しすれば、印象に残ること間違いなしです！

前作

ご使用例



びわこふせんを地図の起点に！
待ち合わせ場所や目的地までの
距離感などを確認しやすい
（滋賀県民に伝わりやすいです）

早いもので、2015年も残すところあと少しとなりました。
今年一年多くのご愛顧をいただき、誠にありがとうございました。本年も、びわこ文具シリーズやノートなど、数多くの滋賀を愛する文具を作ってまいりました。
これからも、地元に寄り添いながら、ヨシの新たな活用方法を見出すべく、模索を続けてまいります。
今シーズン1回目のヨシ刈りを終えたばかりですが、来年も引き続き、皆様のお力添えを、何卒よろしくお願いいたします。
皆様にとって、来る新年が
素晴らしいものでありますように

エデンに還そう
エデンに帰ろ。